

図書館運営に関する提言を目指して (その3)

—量的分析を通して—

For a Proposal about the Library Administration Vol.3

漆澤 恭子¹ 三枝 隆²

学生の2012年度図書館利用状況について、学部学科学年毎の月別利用状況と学部学科学年毎の図書分類項目別利用状況を作成した。昨年度作成した2011年度図書館利用状況と合わせて検討した結果、学生の利用状況について一定の傾向がある事が分かり、更に来年度に2013年度の利用状況について集計する必要がある事が分かった。来年度は3年間の集計結果から、学生の図書館利用状況の傾向又は規則性を見出し、各学科・学部での図書選定に関する参考資料を作成する事を目標とする。

キーワード：図書館利用状況、図書選定資料

1. 昨年度分析の概要と本年度の目標

昨年度は、学生の2011年度図書館利用状況について、学部学科学年毎の月別利用状況と学部学科学年毎の図書分類項目別利用状況を作成した。本年度も学生の2012年度図書館利用状況について、学部学科学年毎の月別利用状況と学部学科学年毎の図書分類項目別利用状況を作成する。本年度は更に両者を比

較し、学生の図書館利用状況が恒常的なものか単年度のものをかを判断する。

2. 学部学科学年毎の月別利用状況

2012年度月別利用状況は表1の通りである。参考の為に2011年度の月別利用合計数を示す。

貸出件数が大きく減少している。貸出件数につい

表1 月別利用件数 (2012年度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
[地域介護福祉1年]	29	29	28	29	76	17	37	32	49	64	27	8	425
[地域介護福祉2年]	37	37	77	87	22	26	13	40	14	39	13	8	413
[介護福祉専攻]	0	0	11	2	0	0	0	0	0	0	0	0	13
介護福祉小計	66	66	116	118	98	43	50	72	63	103	40	16	851
[児童障害福祉1年]	17	17	30	6	14	28	33	38	85	31	34	20	353
[児童障害福祉2年]	62	66	146	14	30	2	42	78	95	46	5	6	592
[特別支援教育専攻]	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	9
障害福祉小計	79	83	176	20	44	30	75	116	189	77	39	26	954
[発達教育学部1年]	96	111	81	94	116	6	13	34	123	57	33	0	764
[発達教育学部2年]	41	44	57	114	40	23	100	69	55	30	13	4	590
[発達教育学部3年]	62	66	29	30	70	31	30	28	66	75	38	2	527
[発達教育学部4年]	41	43	63	84	124	65	65	129	167	168	34	2	985
発達教育小計	240	264	230	322	350	125	208	260	411	330	118	8	2,866

1 植草学園大学図書館館長 植草学園短期大学

2 元東京都教育相談センター

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
[保健医療学部1年]	0	0	21	22	10	11	74	41	27	34	4	4	248
[保健医療学部2年]	15	15	10	16	28	5	17	18	20	29	13	3	189
[保健医療学部3年]	30	30	27	42	74	8	43	91	101	107	71	53	677
[保健医療学部4年]	39	39	77	39	180	34	25	73	42	51	18	82	699
保健医療小計	84	84	135	119	292	58	159	223	190	221	106	142	1,813
合計	469	497	657	579	784	256	492	671	853	731	303	192	6,484

月別利用件数 (2011年度)

合計	1,266	1,779	1,825	2,207	453	289	1,309	1,213	774	1,156	459	155	12,885
----	-------	-------	-------	-------	-----	-----	-------	-------	-----	-------	-----	-----	--------

表2 月別利用件数の割合 (縦方向)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
[地域介護福祉1年]	6.2	5.8	4.3	5.0	9.7	6.6	7.5	4.8	5.7	8.8	8.9	4.2	6.6
[地域介護福祉2年]	7.9	7.4	11.7	15.0	2.8	10.2	2.6	6.0	1.6	5.3	4.3	4.2	6.4
[介護福祉専攻]	0.0	0.0	1.7	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
地域介護・専攻科小計	14.1	13.3	17.7	20.4	12.5	16.8	10.2	10.7	7.4	14.1	13.2	8.3	13.1
[児童障害福祉1年]	3.6	3.4	4.6	1.0	1.8	10.9	6.7	5.7	10.0	4.2	11.2	10.4	5.4
[児童障害福祉2年]	13.2	13.3	22.2	2.4	3.8	0.8	8.5	11.6	11.1	6.3	1.7	3.1	9.1
[特別支援教育専攻]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.1
児童障害・専攻科小計	16.8	16.7	26.8	3.5	5.6	11.7	15.2	17.3	22.2	10.5	12.9	13.5	14.7
[発達教育学部1年]	20.5	22.3	12.3	16.2	14.8	2.3	2.6	5.1	14.4	7.8	10.9	0.0	11.8
[発達教育学部2年]	8.7	8.9	8.7	19.7	5.1	9.0	20.3	10.3	6.4	4.1	4.3	2.1	9.1
[発達教育学部3年]	13.2	13.3	4.4	5.2	8.9	12.1	6.1	4.2	7.7	10.3	12.5	1.0	8.1
[発達教育学部4年]	8.7	8.7	9.6	14.5	15.8	25.4	13.2	19.2	19.6	23.0	11.2	1.0	15.2
発達教育小計	51.2	53.1	35.0	55.6	44.6	48.8	42.3	38.7	48.2	45.1	38.9	4.2	44.2
[保健医療学部1年]	0.0	0.0	3.2	3.8	1.3	4.3	15.0	6.1	3.2	4.7	1.3	2.1	3.8
[保健医療学部2年]	3.2	3.0	1.5	2.8	3.6	2.0	3.5	2.7	2.3	4.0	4.3	1.6	2.9
[保健医療学部3年]	6.4	6.0	4.1	7.3	9.4	3.1	8.7	13.6	11.8	14.6	23.4	27.6	10.4
[保健医療学部4年]	8.3	7.8	11.7	6.7	23.0	13.3	5.1	10.9	4.9	7.0	5.9	42.7	10.8
保健医療小計	17.9	16.9	20.5	20.6	37.2	22.7	32.3	33.2	22.3	30.2	35.0	74.0	28.0
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

での議論は本稿の目的ではないので省略するが、憂慮すべき数値である事は間違いない。

表1の縦方向の割合を表2に示す。

発達教育学部が群を向いて多い事は2011年度と同様だが、割合は下がっている。2011年度は児童障害福祉専攻が発達教育学部に続いていたが、2012年度は保健医療学部が続いている。全体的に2011年度よりは平均化の方向を向いている。この方向性については2013年度も集計して検討する必要がある。

表1の横方向の割合を表3に示す。参考の為に2011年度の横方向の割合も示しておく。

2012年度の利用状況は2011年度に比べてピークが年度当初に移行しているが、この傾向についての結論を出すのは早計である。更に2013年度についても

集計を続ける必要がある。

地域介護福祉専攻2年の利用は夏に偏っているが、1年は1月にもピークがある。これは2011年度と同じである。2013年度も集計して確認する必要があるが、現時点でも情報提供する意義はあると考える。

児童障害福祉専攻1年の利用のピークは12月にあり2年のピークは6月にある。この傾向は2011年度と同じである。地域介護福祉専攻と同様に、2013年度も集計を続け傾向を確認する必要があるが、現時点でも情報提供する意義はあると考える。

発達教育学部1年の利用は、年度当初に多いのは2011年度と同じであるが2012年度は12月にもピークがある。現時点での情報提供は難しく、2013年度も集計を続ける必要がある。2年の利用ピークは7月

表3 月別利用件数の割合 (横方向) 2012年度

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
[地域介護福祉1年]	6.8	6.8	6.6	6.8	17.9	4.0	8.7	7.5	11.5	15.1	6.4	1.9	100.0
[地域介護福祉2年]	9.0	9.0	18.6	21.1	5.3	6.3	3.1	9.7	3.4	9.4	3.1	1.9	100.0
[介護福祉専攻]	0.0	0.0	84.6	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
地域介護・専攻科小計	7.8	7.8	13.6	13.9	11.5	5.1	5.9	8.5	7.4	12.1	4.7	1.9	100.0
[児童障害福祉1年]	4.8	4.8	8.5	1.7	4.0	7.9	9.3	10.8	24.1	8.8	9.6	5.7	100.0
[児童障害福祉2年]	10.5	11.1	24.7	2.4	5.1	0.3	7.1	13.2	16.0	7.8	0.8	1.0	100.0
[特別支援教育専攻]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
児童障害・専攻科小計	8.3	8.7	18.4	2.1	4.6	3.1	7.9	12.2	19.8	8.1	4.1	2.7	100.0
[発達教育学部1年]	12.6	14.5	10.6	12.3	15.2	0.8	1.7	4.5	16.1	7.5	4.3	0.0	100.0
[発達教育学部2年]	6.9	7.5	9.7	19.3	6.8	3.9	16.9	11.7	9.3	5.1	2.2	0.7	100.0
[発達教育学部3年]	11.8	12.5	5.5	5.7	13.3	5.9	5.7	5.3	12.5	14.2	7.2	0.4	100.0
[発達教育学部4年]	4.2	4.4	6.4	8.5	12.6	6.6	6.6	13.1	17.0	17.1	3.5	0.2	100.0
発達教育小計	8.4	9.2	8.0	11.2	12.2	4.4	7.3	9.1	14.3	11.5	4.1	0.3	100.0
[保健医療学部1年]	0.0	0.0	8.5	8.9	4.0	4.4	29.8	16.5	10.9	13.7	1.6	1.6	100.0
[保健医療学部2年]	7.9	7.9	5.3	8.5	14.8	2.6	9.0	9.5	10.6	15.3	6.9	1.6	100.0
[保健医療学部3年]	4.4	4.4	4.0	6.2	10.9	1.2	6.4	13.4	14.9	15.8	10.5	7.8	100.0
[保健医療学部4年]	5.6	5.6	11.0	5.6	25.8	4.9	3.6	10.4	6.0	7.3	2.6	11.7	100.0
保健医療小計	4.6	4.6	7.4	6.6	16.1	3.2	8.8	12.3	10.5	12.2	5.8	7.8	100.0
合計	7.2	7.7	10.1	8.9	12.1	3.9	7.6	10.3	13.2	11.3	4.7	3.0	100.0

月別利用件数の割合 (横方向) 2011年度

合計	9.8	13.8	14.2	17.1	3.5	2.2	10.2	9.4	6.0	9.0	3.6	1.2	100.0
----	-----	------	------	------	-----	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-------

と10月にあるが2011年度は10月と1月にあり、それぞれ3ヶ月早まっている。原因については不明である。3年の2011年度には集中する月があったが2012年度は集中する月はなく、傾向を読み取るのは難しい。4年の利用は12月1月に集中しているが2011年度には見られなかった。発達教育学部については2013年度も集計を続けるが、利用状況に傾向を見出すのは難しいと思われる。

保健医療学部1年は10月に大きなピークがあるが、2011年度には6月だった。2年のピークは8月と1月だが、2011年度は4月と10月だった。3年は11～1月にあるが、2011年度も11～2月にあった。

4年は8月に大きなピークがあるが、2011年度には見られなかった。2013年度も集計を続け3年の傾向を確認する必要があるが、他の学年については傾向を見出すのは難しいと思われる。

3 学部学科学年毎の図書分類別の集計

学部学科学年で必要となる図書はどの分野の本であるかを示している。なお紙面横サイズの関係で図書分類項目は利用件数の上位10項目について表示してある。全ての項目についての数値を知りたい場合には筆者までご連絡を頂きたい。

(1) 地域介護福祉専攻

表4 地域介護福祉専攻

図書分類	104	101	106	911	103	800	109	912	923	550	一 部 省 略	合 計	
	(介護)	(医学・薬学)	(福祉)	(問題集)	(教育)	(文学)	(心理学)	(テキスト)	(漫画)	(言語)			
[地域介護福祉1年]	137	38	48	6	4	18	1	4	0	3			425
[地域介護福祉2年]	94	80	49	20	19	4	20	7	11	7			413
[介護福祉専攻]	3	0	7	0	0	0	0	0	0	0			13
合計	234	118	104	26	23	22	21	11	11	10	851		

1年2年共に「介護」「医学・薬学」「福祉」が上位を占めている。2011年度多かった「絵本」は2012年度は0件だった。連続して数年集計を続けないと

結論を誤る好例である。

(2) 児童障害福祉専攻

表5 児童障害福祉専攻

図書分類	103	119	106	101	800	911	107	105	600	200	一部 省略	合 計	
	(教育)	(保育・育児)	(福祉)	(医学・薬学)	(文学)	(問題集)	(美術・書道)	(家政・手芸)	(社会問題)	(自然)			
[児童障害福祉1年]	186	39	27	7	12	4	5	0	4	3			353
[児童障害福祉2年]	283	69	13	19	5	8	6	10	2	1			592
[特別支援教育専攻]	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0			9
合計	473	108	40	26	17	12	11	10	6	4	954		

1年2年共に「教育」が圧倒的に大きく「保育・育児」が続いており、更に「福祉」「医学・薬学」が続いている。

ない。その原因を探るのも興味深いが本稿の目的からは外れる。地域介護福祉専攻も同じ傾向となっているのが面白い。

2011年度に上位を占めていた「絵本」「紙芝居・パネルシアター」は2012年度には殆ど利用されてい

(3) 発達教育学部

表6 発達教育学部集計

図書分類	103	800	106	911	119	101	107	600	912	104	一部 省略	合 計	
	(教育)	(文学)	(福祉)	(問題集)	(保育・育児)	(医学・薬学)	(美術・書道)	(社会問題)	(テキスト)	(介護)			
[発達教育学部1年]	395	42	23	0	33	27	13	18	8	0			764
[発達教育学部2年]	250	39	18	16	9	19	9	2	3	3			590
[発達教育学部3年]	259	26	37	14	15	4	7	9	4	7			527
[発達教育学部4年]	434	51	65	45	16	8	17	11	24	19	985		
合計	1,338	158	143	75	73	58	46	40	39	29	2,866		

1年2年3年共に「教育」の利用件数が圧倒的に大きく、「文学」「福祉」が続いている。昨年度圧倒的に多かった「絵本」は2012年度は殆ど貸し出されていない。この傾向は地域介護福祉専攻と児童障害

福祉専攻と同じである。館内利用についてはここからは測れないが貸し出し利用は一種の流行だったのだろう。

(4) 保健医療学部

表7 保健医療学部集計

図書分類	101	911	106	109	200	102	103	115	600	104	一部省略	合計	
	(医学・薬学)	(問題集)	(福祉)	(心理学)	(自然)	(看護)	(教育)	(スポーツ・体育)	(社会問題)	(介護)			
[保健医療学部1年]	103	13	10	4	1	2	0	1	0	2			248
[保健医療学部2年]	98	13	4	2	0	1	0	0	3	0			189
[保健医療学部3年]	316	43	6	2	8	0	4	2	0	0			677
[保健医療学部4年]	305	66	1	1	0	4	0	0	0	0	699		
合計	822	135	21	9	9	7	4	3	3	2	1,813		

1年から4年まで「医学・薬学」の利用が圧倒的に大きい。

4 本年度分析の結果と来年度研究の目標

(1) 本年度分析の結果

①利用時期について

傾向の見出せた学部学科学年もあるが、見出せなかった学部学科学年もある。来年度に2013年度分の集計を行い、傾向が規則とまで言えるか否かを検討する。

②学部学科学年毎の利用状況について

2012年度の利用状況は概ね常識的な内容だった。統計調査は標本数が多くなればなる程、集計年数が

多くなればなる程、常識的な内容になるのが通例である。しかし毎年集計を重ねる事により、2011年度の「絵本」の様に一時期流行的に増加する分野もある事が分かる。図書館は流行的な利用に備えるのも業務の筈であり、年度毎に集計を続ける事は意味のある事である。

(2) 来年度研究の目標

来年度は2013年度の図書館利用状況から、過去2年間と同じ学部学科学年毎の月別利用状況と図書分類別利用状況を作成する。この2年間で傾向が見出せたものについては、傾向が規則とまで言えるかどうか検討する。